

平成30年度第1回下水道技術開発会議 の内容確認

第1回会議で確認した平成30年度の取組方針 #1

活動の柱①「技術ニーズの把握と発信」

- ◆ 個別ヒアリング調査を実施し、事業主体の技術ニーズや課題の抽出、新技術導入上の課題等の把握を行う。 ⇒ [資料4-1参照](#)
- ◆ 各種会議(下水道協会総会、下水道主管課長会議、全国下水道公社連絡協議会、技術開発連絡会議、下水道研究会議等)の提案議題における技術的課題を収集・分析する。
⇒ [資料4-1参照](#)
- ◆ 新技術の要求性能と需要量の把握として、圧送管きょにおける調査方法等について調査を行う。 ⇒ [資料4-3参照](#)
- ◆ 各種会議における議題のプロジェクトGAMによる情報共有について検討する。
⇒ [情報共有のあり方について今後検討](#)

活動の柱②「技術シーズの把握と発信」

- ◆ 技術シーズ調査を実施する。 ⇒ [H30.6に実施済み](#)
- ◆ 各種会議における議題のプロジェクトGAMによる情報共有について検討する。【再掲】

第1回会議で確認した平成30年度の取組方針 #2

活動の柱③「ニーズとシーズの架け橋」

- ◆ プロジェクトGAMと連携し、GAMデータベースを改良し、充実を図る。
⇒ [資料3-2\(プロジェクトGAM部分\)参照](#)

活動の柱④

「国などの技術情報の共有(グローバルとローカルの架け橋(1))」

- ◆ B-DASH技術の普及展開状況調査を実施し、結果を公表する。
⇒ [第1回会議で結果を公表済み](#)
- ◆ 自治体、民間企業等への情報共有方法として、B-DASH技術のカタログを作成する。
⇒ [資料4-2および参考資料2参照](#)
- ◆ B-DASH技術のフォローアップ(効果、安定性、維持管理性)を行い、情報を提示する。
⇒ [活用実績を踏まえた情報提供方法を今後も検討](#)
- ◆ 他団体が保有する技術情報について情報収集し、プロジェクトGAMによる情報共有を検討する。 ⇒ [情報共有のあり方について今後検討](#)

第1回会議で確認した平成30年度の取組方針 #3

活動の柱⑤

「地方の技術開発・技術導入の支援(グローバルとローカルの架け橋(2))」

- 1) 情報、ノウハウの共有による技術導入支援
- 2) 小都市等の下水道事業をサポートする技術の開発・普及方策

- ◆ B-DASH技術の普及展開状況調査を実施し、結果を公表する。【再掲】
- ◆ プロジェクトGAMと連携し、GAMデータベースを改良し、充実を図る。【再掲】
- ◆ 個別ヒアリング調査を実施し、事業主体の技術ニーズや課題の抽出、新技術導入上の課題等の把握を行う。【再掲】

活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」

- ◆ ロードマップの改定検討。 ⇒ [資料5参照](#)
- ◆ ロードマップ重点課題の検討・公表。
⇒ [H30.8にロードマップ重点課題を公表済み\(参考資料1参照\)](#)
- ◆ ロードマップの進捗確認作業開始。 ⇒ [資料4-4および参考資料3参照](#)
- ◆ エネルギー分科会を開催。 ⇒ [資料6参照](#)

平成30年度の取組方針に対する委員からの主なご意見と対応状況

- ◆ 競争性の確保等、新技術導入促進のための工夫が必要
 - ⇒ エネルギー分科会で新技術導入促進方策を検討中。[\(資料6参照\)](#)
- ◆ 新技術導入にあたっての自治体側での問題点を明確にし、それへの対応策を打ち出す必要がある
 - ⇒ 自治体ヒアリングの中で、引き続き新技術導入の隘路を探りつつ、エネルギー分科会で新技術導入促進方策について検討。[\(資料6参照\)](#)
- ◆ 自治体の政策への貢献等、自治体ニーズを踏まえた情報の提供が必要
 - ⇒ B-DASHカタログ作成にあたり、自治体ニーズ、自治体ヒアリングでの意見を反映[\(資料4-1、4-2参照\)](#)。政策への貢献等の技術の体系的な整理については今後も検討。
- ◆ 他分野シーズの取り込み、他分野への展開の視点があればよい
 - ⇒ 今後のロードマップ進捗確認の中で、他分野シーズ情報の取り込み方法を検討。
- ◆ 技術開発成果のフォローアップが必要
 - ⇒ B-DASH技術については、活用実績を踏まえた情報提供方法を今後も検討。